令和6年度第1回長崎市環境審議会

日時 令和7年2月7日（金）10:00～11:58

場所 長崎市役所 15階中会議室

- 議題
- 1 会長・副会長の選出
 - 2 令和6年度版長崎市環境白書について（報告）
 - 3 令和6年度版長崎市地球温暖化対策実行計画年次報告書について（報告）

議題（1）「会長・副会長の選出」

- ・委員の互選により会長決定
- ・会長の指名により副会長決定

議題（2）「令和6年度版長崎市環境白書について（報告）」

- ・事務局説明
- ・質疑応答

（委員）

水環境について、P65 資料 10 にマップと河川と海域の水質調査地点番号がある。資料 11 には地点名は書いてあるがマップ上の何番か分からない。次回は資料 11 の地点名に番号も入れていただくと対比しやすいかと思う。

資料の最後にその他の項目として塩化物イオンがあるが、なぜこれが掲載されているのか説明がないと分からない。

資料 9 に載っている基準値の超過はなかったが、検出されていたとしたらどれくらいの数値か分かるように載せるかリンク先を載せてもらえると活用しやすいと思う。

（事務局）

今回出した環境白書は案なので本日の委員皆様からの意見を反映させて完成版としたいと思っている。ご指摘いただいた番号を振る件については反映させたい。

3つめの測定結果についても QR コードを載せ、リンク先が分かるように表記を反映させたい。

（事務局）

塩化物イオンに関しては一般的なグラフの状況の変化を知るための指標としている。そして MBAS に関しては河川などの家庭から出る洗剤などの指標になるということで過去から載せている経緯がある。

(委員)

そのような説明を記載していただいたら分かりやすいと思う。

(事務局)

その他のところに記載したい。

(委員)

リサイクルについては、学校は必ず見学してもらおうということが理想かと思う。

26 ページの自然環境の保全と共生の機会の創出の取組の柱に親子環境教室などが入っているが、成果指標には入っていない。27 ページの成果指標のところに、「まとめている」などの補足の記載があった方がわかりやすい。

38 ページの給食用牛乳パックの回収について、学校や公民館で回収した牛乳パックがトイレットペーパーに変わっているということを掲載できると、より見える化されると思う。

44 ページの環境行動の次世代を担うリーダーの育成について、小学校には学習が行き届いているが、中学・高校については弱いので、中学・高校への講座を確立していくことが大事だと思う。

43 ページの環境行動 11 か条について、配布して時間が経っているせいか自治会掲示板に貼られているものが色あせているので、そろそろ再配布された方がよい。

(事務局)

ホテルの成果指標と環境学習については、今考えているのは 40 ページに環境学習等への参加者数があるので、ここに注釈を入れると分かりやすいかと思うので検討したい。

中・高生への啓発については、ESD 講座は小学校・中学校を対象にしているが、実際は小学生が多いのが実情である。中学・高校になると受験の方にシフトしているかと思うが、高校生にも知ってほしいという考えはあるので、県に相談をするなどしてやっていきたい。

(事務局)

トイレットペーパーについて、現在小・中学校の牛乳パックをリサイクルするという事で協力していただいていることについては、回収はオフィスエコクラブという団体と協力してやっている。その回収しているオフィスエコクラブから、取り組んでいる小学校に再生紙でできたトイレットペーパーをお配りしている。オフィスエコクラブとも協議をしながらより実感できる取組みがないか検討したい。

(事務局)

環境行動 11 か条のポスターについて、本来、自治会掲示板はポスター掲示期間が限定されているものだが、ご厚意で自主的に継続して貼っていただいているものと思われる。再配布について考えたいと思うが、来年度予算で組んでいないので、予算の執行状況を見ながら検討していきたい。

(委員)

まちなかの飲食店が出す一般廃棄物は市の収集とは別に収集を行い、料金も別にとられていると思うが、一般廃棄物と同じように最終的な処理をしているのか。

(事務局)

事業所からのごみについては、大きく一般廃棄物と産業廃棄物に分かれている。一般廃棄物については許可業者に依頼する方法と、少量の場合は事業用ごみ袋を購入していただきごみステーションに出してもらう方法がある。一般廃棄物については最終的には市の処分場で処理を行う。ただ、プラスチック類やガラス類などは産業廃棄物という取扱いになるので、それらは産業廃棄物収集運搬の許可業者に事業所の方から頼んでいただき産業廃棄物の処理業者で処理をすることになるので長崎市の処理場で処理をするということはない。

(委員)

昔は養豚業者が収集を行い、養豚業の餌として利用されることも多かったが、最近は見かけないような気もするので、一般のごみと同じように処理をしているのか。養豚業者の需要はなくなったのか。

(事務局)

食品品の残渣については、昔は堆肥化やコンポストや飼料化などが盛んに行われていた。今でも全くなくなったわけではないが、他の餌の方が安かったりするなどの事情もあり縮小傾向にあると考えている。

(委員)

食品ロスの問題について、コンビニで弁当など食品を扱っていて多くの市民が利用していると思うが、賞味期限があることから食品ロスとしてどのような処置をされているのか。

(事務局)

コンビニにおいて最近では期限が近くなったものを割引して販売されている事業者も増えてはいるが、賞味期限が切れてしまった食品については売られなくなるので廃棄をされていると考えている。それについては国の方で賞味期限を延ばしたらどうかなどの議論も進んでいると聞いている。できるだけ食品ロスがでないようにというところは国をあげての取組と考えている。そういった中で長崎市としてもできる取組みはやっていきたいと考えている。

(委員)

廃棄しなければいけない場合はどのように処理しているのか。コンビニに処理する場所があってそこで処理されているのか。

(事務局)

店舗から出る食品残渣は一般廃棄物という取扱いになる。それでいくと廃棄される分で一番多いのは焼却処分ということで長崎市の処分場に入ってきている量はかなりあるのではないかと

考えている。

(委員)

13 ページの成果指標実績値一覧の環境学習等への参加者数について、等の部分をどの範囲で把握しているのか。他はほとんどあと少しで達成できるようだが、ここに関しては 26.5%の未達となっており、中学生を見ている者としては何か環境学習のできることをやっていきたいと思う。

(事務局)

環境学習の定義が難しく関係部署などに照会をかけて把握しているところだが、急激に減っている要因の1つとしては、あぐりの丘を管理する業者が変わり、イベントの内容も衣替えをされている。そういった中で、あぐりの丘の魅力をアップするイベントになるので、そこが環境学習に繋がるかどうかというところを関係部署と検討したなかで、入らないものを今回除外している。そういったこともあって大幅に減っている部分がある。

ただ、内部で議論するなかでは環境学習に繋がる取組みをされている部分も本来はもっとあるのではないかと我々も思っているので、その掘り起こしはもう少し深く関係課の話も聞きながら見える化していくように考えていきたい。

(委員)

大学では生涯教育センターが取りまとめて環境学習もしている。大学の方のリソースを活かして連携して環境に関する周知や教育ができればと思っているので、そういう機会をもっていければと思っている。

この白書は長崎に住んでいる日本語を話す人がどう取り組むかという施策がメインになっているが、日本語を話さない外国人の方がうまく一緒にやって行けるように日本語以外での周知や施策も考えていければいいと思う。

(事務局)

長崎市で行っている環境学習も長崎市だけでは出来ないものなので、色んな環境の民間の団体の方々をお願いしている。この環境白書の中にも記載しているが九州電力さんと連携させていただいて工場見学と省エネ実験をしたり、西部ガスさんと連携協定を結ばせてもらったり、气象台さんも出前講座をやっていて講師などできるよというお話もいただいているので、我々もそれをどうリンクさせて発信していくかということも課題と思っており、うまくやっていけるように考えていきたい。

外国人の方への周知や施策については、ごみの分別は3か国語の分別チラシを配布しているが、実際に環境の活動をするような取組みは今のところない状況である。ただ、大学の方ではされている取組みがあるかもしれないので、そのようなところの情報も収集しながら一緒に応援できるような情報発信の仕組みを作っていければと思っている。

(委員)

外国の方の関連だが、ベトナムでは技能研修生の施設があって、その施設の中でごみの分別収

集ができるような施設があって、ごみの捨て方の教育をしていた。日本ではこういう分別をしているという教育をしていたので、日本に来られたらすぐそれに慣れて苦勞なくごみを分別収集されるということになると思う。JICA に技能研修生への教育を統一してやってもらえば日本のごみの分別収集に苦勞がなくなると思う。

(委員)

技能実習については市の方では直接かかわっていないので、国の方の話になるかと思う。議事録にはこういうご意見があったということは記録に残しておきたいと思う。

(委員)

長崎ではおくんちやランタンフェスティバルなど外に出て街歩きをするイベントが結構あると思うが、そういうことと関連して長崎市が広報活動などはしていないのか。あればここに提示した方がいいと思う。

(事務局)

特にしていない。

(委員)

ここに書かれていないということは直接のタイアップは今のところしていないのだろうと思う。

(委員)

観光客がたくさん来たり、町の人がたくさん外に出たりするチャンスだと思うので、そういう機会を利用して啓発するといいいのかなと思う。

(委員)

今の話しでいくと、脱炭素先行地域のサステナブルツーリズムがあるので、これから何かやっけていけそうだと思う。

環境学習については、15 ページの防災危機管理室が出前講座をしている地球温暖化の適応策のところでは防災の講座を組み合わせたものとか、27 ページの林業でいくと小学5年生の宿泊学習に合わせて日吉自然の家で木育とかの講座をしているので、そういったところと組み合わせればもう少し増やせると思う。

議題（3）「令和6年度版長崎市地球温暖化対策実行計画年次報告書について（報告）」

- ・事務局説明
- ・質疑応答

(委員)

森林の吸収に関する記載について、20%ぐらいしか目標に達していない理由と、どのようにすれば目標達成できるのか。

(事務局)

今のところ20%しかいっていないが、2050年に向けては森林譲与税も活用しながら林道を造って保全できる部分の実施をしていきたい。

ただ、林業の方の高齢化もありますので、その辺も考えながら実施をしていきたい。

(委員)

1年あたりの炭素吸収量がどれだけ間伐等で有効に活用されたか、というところの目標なのか。森林そのものの吸収量を増やすための施策が足りていないということなのか。

(事務局)

森林の吸収量については森林を整備した面積がCO2の蓄積量に繋がってくるので、その整備する面積を増やしていくことがCO2の吸収量に繋がっていくと考えているので、その部分を2050年に向けて手厚くしていきたいと考えている。

(委員)

LED化の目標に対しての進捗状況について、市の施設全体のLED化は財源確保が必要とのことだったと思うが、商工会議所でも企業の皆様にLED化や省エネを推進する取り組みをやっているが、お金もかかるので厳しいような印象を事業者側も持たれるのかなと思う。その辺も今後の取り組みなど考えがあれば教えてほしい。

(事務局)

今はまだ2%だが今まではあくまで直営工事として実施してきた。ただ、それでは時間が足りないというところもあるので、今後は発注方式を例えばPFIあるいはDBO、リース方式などを使うことにより設計・施行・管理まで民間に任せるといった手法があるので、そういった手法を活用して時間を短縮し、特に2027年の蛍光管の廃止の話もありますので、それに間に合うように実施していきたいと思っている。

(委員)

そしたらこれはもっと進んでいくということか。

(事務局)

全庁的にも進めていきたいと思っている。

(委員)

森林の吸収量についての議論のなかで整備する面積を増やすとあったが、整備というのは植林をするという理解でよいか。

(事務局)

植林もあるかと思うが、実際に今あるところの整備が基本になると考えている。

(委員)

今の森林にCO₂を吸収させようとする、森林の生育状態によって二酸化炭素の吸収量は下がるので、今ある森林を使って吸収させようとしてもさほど吸収量が伸びない可能性がある。今成長しようとしている森林に対してはCO₂の吸収量が伸びるが、ある程度成長している森林に対してはそれ以上二酸化炭素を吸収することができないという研究があるので、そのことを考慮して推計しているのかというところが疑問であった。

そのうえで、整備すると言ってもそれほど森林吸収がされない可能性があるのを考慮してもらえればと思う。